リスクマネージャー・メールマガジン

京大病院　医療安全管理室

2025/ 9 /17

京大病院リスクマネージャーのみなさま、こんにちは。
医療安全管理室・副室長の加藤果林です。
リスクマネージャーマガジンは、医療安全部門とリスクマネージャーをつなぐ媒体です。
いつも業務に真摯に取り組んでくださり、本当にありがとうございます。

9/17 は世界患者安全の日

本日は世界医療安全の日（World Patient Safety Day）についてお話しします。
2019 年に世界保健機関（WHO）が公式に制定し、今年でまだ数年目の新しい記念日ですが、実は国際的に大きな意義を持つ日です。
WHO がなぜこの日をつくったのか――それは「医療の現場で毎日行われている小さなミスや事故を、世界中の誰もが“避けられるもの”として意識しよう」という呼びかけからでした。医療は高度化し、専門職も増え、システムも複雑化しています。その一方で「確認不足」「情報伝達の齟齬」「ちょっとした思い込み」から起きる事故は後を絶ちません。
日本でも医療安全対策は長く取り組まれてきましたが、世界的に見ても「医療に従事するすべての人、そして**患者自身が安全に参加する文化**」を強調する動きが高まっています。世界医療安全の日は、その象徴的な日なのです。
毎年厚生労働省としても、医療機関、職能団体、患者団体、教育機関、学会など、さまざまな団体と協力して普及啓発活動を行っており、京都大学医学部附属病院医療安全管理部の取り組みが紹介されたこともあります。世界患者安全の日｜厚生労働省

WHO は毎年重点テーマを掲げています。2025 年のテーマは、
“**Safe care for every newborn and every child**” (訳：すべての新生児とすべての子どもに安全なケアを) です。

世界がオレンジに染まる日

世界医療安全の日には、世界各国で建物やモニュメントがシンボルカラーのオレンジにライトアップされます。「医療安全をみんなで考えよう」というメッセージを光で伝える試みです。忙しい現場にいると忘れがちですが、世界中で同じように「医療安全」を守ろうと努力している仲間がいることを、この日は実感できます。
日本でもさまざまな有名文化遺産がオレンジに輝くことがあります。今年はどこがオレンジに輝くか、探してみてください！1 年に 1 回の貴重な姿はＳＮＳ映えすること間違いなしです。

現場での「あるある」を教えてください

医療安全というと「大きな事故」を思い浮かべがちですが、実際に私たちが直面するのは「ヒヤリ・ハット」と呼ばれる小さな出来事です。
・輸液ポンプの電源が入っていなかった。
・採血管のラベルを貼り間違えそうになった。
・一般指示と内服指示簿に相違があった。
・点滴棒を押しながら歩いた患者が転倒しかけた。

どれも「あるある」と思われるかもしれないですが、未然に防げたとき、その裏側には「安全の仕組み」や「声をかけ合う文化」が働いています。
世界医療安全の日に振り返るのは、まさにこうした“日常の小さな予防行動”です。
みなさんの“あるある”を是非インシデントレポートとして教えてください。
KING８ではインシデントレポートシステムが大きく変わります。是非ご期待ください！